

第 10 回 西日本インカレ（合同研究会）専用企画シート

必ず「企画シート作成上の注意」をご確認いただき、ご記入をお願いいたします。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
リュウコクダイガク	ケイエイガクブ	ニシオカゼミ
龍谷大学	経営学部	西岡ゼミ

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
シダンストリート	オギワラ カズキ	8 人
SHIADAN STREET	荻原 主基	

研究テーマ（発表タイトル）

『師団街道から始める ICT による地域活性化』

1. 研究概要（目的・狙いなど）

- ①ICT によって、京都におけるオーバーツーリズム・地区ごとの観光客数のギャップを解消する
- ②ICT（AI・SNS・WEB）を用いた龍谷大学近辺にある師団街道の魅力（ラーメン）の発信
- ③ICT を用いた三者間市場のローカル化の提案

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

現在、京都市観光協会でオーバーツーリズム対策事業が立ち上げられるなど、京都ではオーバーツーリズムによる問題（観光客の満足度低下・周辺住民の生活など）が顕著である。オーバーツーリズムの特徴として、特定の観光地に観光客が殺到することが挙げられる。そこで、その他のあまり知られていない観光地の魅力を発信することで、集中する観光地から観光客を分散させ、オーバーツーリズムの解消に繋げることができるのではないだろうか。

例えば、我々が所属する龍谷大学近辺に位置する『師団街道』もその一つである。師団街道沿いにはラーメン店が多く存在し、龍谷大学生などには人気であるが、観光客の姿をあまり見かけることがない地域である。そこで我々は師団街道の魅力（ラーメン）を知ってもらうことができれば、伏見稲荷大社周辺に集中した観光客が師団街道にも流入し、師団街道沿いの経済循環が活発になると考える。これが我々の考える地域活性化である。

近年は ICT などのテクノロジーの発展が著しい。ここ 10 年ほどの間に IT 業界のキーワードになった言葉は多く、IoT・ク

研究背景

- ・公共交通機関の乱れ
- ・騒音

初詣参拝者数：約277万人

・オーバーツーリズム

ex) オーバーツーリズム対策事業 京都市観光協会

・ICT の力でどうにかしたい

参考文献
https://www.kyotoandem.or.jp/kyain/project/sustainable/ 2019年10月3日 京都市観光協会
kyain.jp/modules/comments/index.php?comment_id=186 2019年10月20日

師団街道 ご存じですか？

龍谷大学生に大人気の師団街道

・飲食店が豊富で毎日言っても飽きない

実は...
ラーメンが超熱い！

ラウド・AI・ビッグデータ・ブロックチェーンなど様々である。

そこで、我々は『ICT と地域に根付いた飲食店の連携が、オーバーツーリズム問題の解消と地域経済活性化への手段の一つになる可能性を秘めている』という仮説を立て、実証・考察を行う。具体的には師団街道沿いの数店舗の最適なラーメンを AI (WEB アプリ) で推薦するアプリを開発し、実際に利用してもらうことで師団街道に観光客を誘致していく。同時に SNS (Instagram) を用いて AI アプリを観光客に宣伝するとともに、それらの活動を WEB サイトやブログでも発信する。

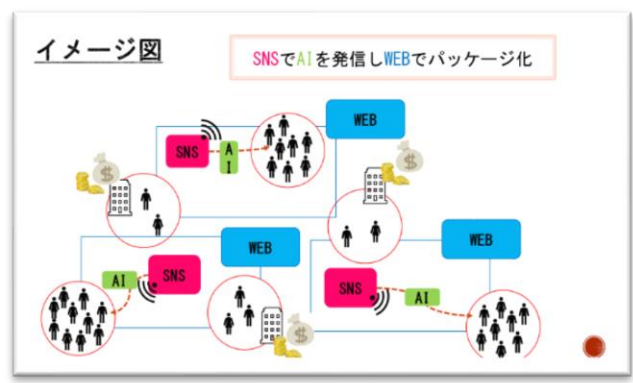
3. 研究テーマの課題

日本の代表的な観光地である京都府は、日々国内外からの観光客で賑わっている。京都府のみならず日本各地への観光客は日本経済を活性化させるとともに、我々現地の人間も多くの方と交流する機会が得られるなどのメリットがある。

京都でも清水寺・伏見稲荷・金閣寺…と多くの観光地が注目され観光客であふれている。

しかし近年は一部の観光地に観光客が集中するなど、京都府のみならず世界各国でオーバーツーリズムへの問題意識が高まってきている。このような一部の地域に観光客が集中してしまうオーバーツーリズムでは、交通機関の乱れや騒音など、現地住民が不満を募らせる結果になりかねない。そこで我々は観光客にはあまり知られていない地域の魅力を発信することで、集中する観光客を分散させ、オーバーツーリズムの解消かつ地域活性化に繋げることを試みる。本研究の最終的な目的は、アプリ開発者 (サービス提供者) ・顧客 (サービス享受者) ・企業の三者間市場における汎用化の一事例となることで、このような三者間市場が様々な地域でも積極的に活用される社会が広がることである。

4. 課題解決策 (新たなビジネスモデル・理論など)

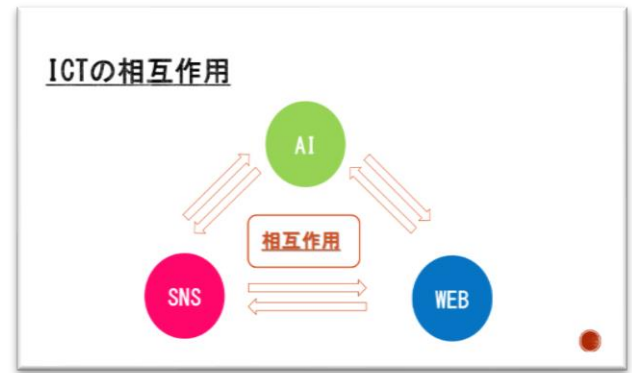
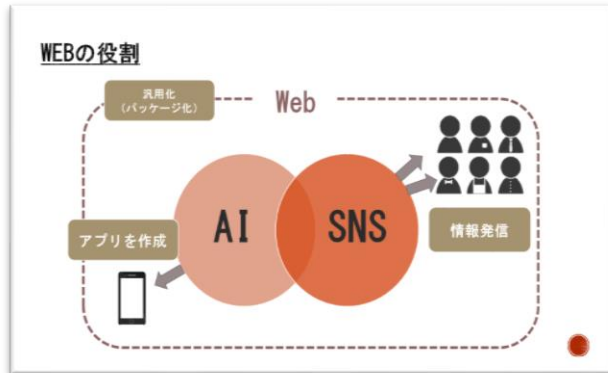


『ICT と地域に根付いた飲食店の連携が、オーバーツーリズム問題の解消と地方経済活性化への手段の一つになる可能性を秘めている』という仮説をもとに、「ラーメンを推薦するための AI アプリの開発→SNS による AI アプリ・師団街道・京都グルメの発信→その活動を WEB にまとめて発信」という連携をとることで、観光客を過密地域 (本研究では伏見稲荷周辺) から、あまり知られていない地域 (本研究では師団街道沿い) へ誘致する。そして本研究で各メディア (SNS・WEB) の最適な活用法を導くことで AI アプリ・SNS・WEB の良い連携を検討・検証していく。

ゆくゆくは上記にも示した様に、アプリ開発者・顧客 (サービス享受者) ・企業の三者間市場とその汎用化の実現を目指す。

5. 研究・活動内容 (アンケート調査、商品開発など)





本研究における ICT として、今回は AI・SNS・WEB を利活用する。この 3 ツールでそれぞれの分野から観光客へのアプローチを試みる。

AI : ユーザビリティを意識した WEB アプリの開発、各ユーザーに最適なラーメンを AI を用いて推薦することで師団街道のラーメンへの興味、関心を喚起する。

SNS : 師団街道のラーメンや京都グルメの投稿、また SNS の影響力を最大化するための投稿分析とその分析結果を活かした AI アプリの告知及び本研究活動の認知度を向上させる。

WEB : 日々の活動記録を発信するとともに、研究から得た分析結果及び作成した AI アプリのシステム詳細を要約してまとめることで、他の地域でも今回の施策を参考にできるようにパッケージ化を目指す。

以上の 3 ツールを連携させ、観光客へ最適なラーメンを推薦・師団街道への興味を刺激することで、師団街道沿いへの流入を促し魅力発信を実現する。また検証をしていく中で、各ツールでデータを蓄積し、改善と検証を繰り返していく。

6. 結果や今後の取り組み

結論として、我々が提案する三者間市場が様々な地域で多発することにより、ヒト・企業が各地域に流入し、各地域の経済循環が発生することが予期される。つまり、三者間市場が様々な地域で多発・促進されることで、各地域の活性化につながると考えられるのである（地域活性化）。

我々の立てた仮説『オーバーツーリズムの解消⇒地域活性化』に当てはめて考えると、『三者間市場の多発化⇒地域活性化⇒オーバーツーリズムの解消』という流れが考えられるのである。



今後も引き続き、ICT を用いたオーバーツーリズムの解消に向け、師団街道沿いを通じた検証と考察を重ねるとともに将来的には師団街道以外の地域でも普及させていきたい。



こちらが、今回私たちが発表させていただいたラーメン師匠（AI アプリ）・SNS（Instagram）・WEB サイトです！
よろしければお試しください！
そして、是非師団街道にお越しください！

西岡ゼミ一同お待ちしております！

7. 参考文献

オーバーツーリズム対策事業 | 京都市観光協会 <https://www.kyokanko.or.jp/project/sustainable/> 2019 年 11 月 5 日
坪井大輔『WHY BLOCKCHAIN』株式会社翔泳社（2019）
クリス・アンダーソン『フリー〈無料〉からお金を生み出す新戦略』NHK 出版（2016）
『フリー〈無料〉からお金を生み出す新戦略』日経コンピュータ 2010/01/06 号, pp.116（2010）
『「無料」ほど恐いものはないーフリー編』日経ビジネスアソシエ 2010/05/18 号, pp.82~83（2010）
『「京都市長」門川 大作 氏一文化庁移転を起爆剤に』日経ビジネス 2016/05/09 号, pp.64~67（2016）
『連携協定、SDGs 未来都市は本物になるかー企業がハブ、「異質」をつなぐ』日経 ESG2019/03 号, pp.18~21（2019）

●パワーポイント内に動画を使用されている場合、動画を使用しているスライドのページをご記入ください。

特になし

●発表時に使用する成果物（例. 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査に使用したアンケート）

<https://shidan-ramen-ai.herokuapp.com/>（AI アプリ）

https://www.instagram.com/__kyotofood__/?igshid=flgu2p38zclc（Instagram）

<https://shidanstreet-ryukoku.jimdofree.com/>（WEB サイト）

【企画シート作成上の注意】※「第 10 回 西日本インカレ（合同研究会）大会参加要項」も合わせてご確認のうえ、企画シートの作成を行ってください。

- ・本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。
- ・本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、翌年 3 月に公開予定の「日経ビジネス電子版」にリンクされた特設サイトに掲載されます。
- ・本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ・本企画シートは、作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。
- ・大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ・商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。
- ・書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ・発表時に使用する成果物がありましたらご記入ください。記入がない成果物は大会当日使用することができません。また記入いただいた内容について、事務局から代表者の方に確認をさせていただく場合がございます。
- ・電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

↑ここまでを 4 ページ以内に収めて、提出してください↑